



TITLE:

1-2. ガイダンス（実体顕微鏡の使い方）

AUTHOR(S):

市岡, 孝朗; 瀬戸口, 浩彰; 幡野, 恭子; 東樹, 宏和

CITATION:

市岡, 孝朗 ...[et al]. 1-2. ガイダンス（実体顕微鏡の使い方）. 全学共通科目 自然科学科目群／生物学 生物学実習Ⅰ [基礎コース] テキスト 2017, 2016: 1-2

ISSUE DATE:

2017-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/218885>

RIGHT:

1. ガイダンス-実体顕微鏡の使いかた-

オリンパス SZ61

- ①収納棚には、このような状態で置いてあります。
カバーを外したうえで、利き手でアームを持ち、
もう片方の手で底面を支えて下さい。



収納時の状態

- ②顕微鏡の本体に電源コードを差し込みます。
コードのもう一方は、デスクにつり下げられた
コンセントに差し込んで下さい。見慣れない一本はアースです。



- ③鏡筒の基部にメタル色の固定ねじがあります。これを緩めて、鏡筒の向きを
反転させ、もういちど、固定ねじをしっかりと締めます。



この向きで使います

- ④ステージ右側にある電源スイッチを入れます。続いて、ステージ奥にある光源を
回して適切な明るさに調節します。右側は落射照明、左側は透過光照明です。



落射光の光源

- ⑤鏡筒の右側には倍率を調節するダイヤルがあります。まず、低倍に設定します。
次に観察する物をステージに乗せて、鏡筒を上下させて焦点を合わせます。
次に、眼の幅を合わせます。

まず、自分の効き眼で焦点を合わせて下さい。次に反対の眼で、視野リングを回して
焦点を合わせて下さい。観察対象が立体的に見えたらOKです。



- ⑥観察では、まず低倍率から徐々に拡大して、観察対象の位置を定めて下さい。
一回、焦点を合わせておけば、倍率を変えても微調整で直ぐに焦点が合うはずです。

実体顕微鏡のしまい方

基本的に、使い始める作業の逆になります。

- ①ステージ奥にある光源を回して、光量をゼロにします。
続いて、ステージ右側にある電源スイッチを切ります。



- ②鏡筒基部のメタル色の固定ねじを緩めて、鏡筒の向きを
反転させて、収納のポジションに戻します。そしてもう一度、
固定ねじをしっかりと締めます。



- ③電源を抜いて、コードをステージの
上に置きます。



収納時の状態

- ④利き手でアームを持ち、もう片方の手で底面を支えて、収納棚に戻して下さい。
次の使い始めに取り出しやすいように、アームを手前側にして置いて下さい。

- ⑤ビニールのカバーを掛けます。

- ⑥地震時の落下防止柵をセットします。